

パートIV. 新約時代
21章 神の国の提示
—神の国の成就是延期された—

イントロダクション

1. 「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマに沿って聖書を読み解いている。

- (1) この葛藤は、創世記3章以来続いているものである。
- (2) この葛藤は、黙示録20～21章で終わる。

2. 文脈の確認

- (1) パートI. 葛藤の舞台設定 (1～3章)
- (2) パートII. 旧約時代 (4～17章)
- (3) パートIII. 中間時代 (18～19章)
- (4) パートIV. 新約時代 (20～23章)

3. 新約時代

- (1) 20章 メシアの到来—十字架への道を妨害する悪魔—
- (2) 21章 神の国の提示—神の国の成就是延期された—
- (3) 22章 教会の誕生—宣教の広がり—
- (4) 23章 教会に対する迫害—抵抗する悪魔—

4. アウトライン

- (1) 神の国の提示
- (2) 王として来られたイエス
- (3) イスラエルの民の不信仰
- (4) 神の計画の成就

イエスによる神の国の提示について学ぶ。

I. 神の国の提示

1. 神の国とは何か。

- (1) 旧約時代の預言者たちは、神の国の到来を預言していた。
 - ①ユダヤ人たちは「メシア的王国」と呼び、異邦人たちは「千年王国」と呼ぶ。
 - ②これは、メシアを王とする神政政治の国 (Kingdom) である。

2. 神の国が地上で成就するための条件は何か。

- (1) イスラエルの民がイエスをメシアとして受け入れることである。

- ①もし神の国が成就したなら、悪魔の王国は完全に破壊されてしまう。
- ②悪魔は、イスラエルの民がイエスを信じないように暗躍する。
- ③これが、神の国を巡る光の王国と闇の王国の戦いの実相である。

3. バプテスマのヨハネが語ったメッセージはどのようなものか。

(1) 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」(マタ 3:2)。

- ①「天の御国」は、「神の国」と同じ意味である。
- ②マタイは、ユダヤ人読者のために、「神」ということばを意図的に避けた。

4. イエスが語ったメッセージはどのようなものか。

(1) マタ 4:17

Mat 4:17 この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

- ①イエスは、バプテスマのヨハネと同じメッセージを語った。
- ②バプテスマのヨハネは、イエスの先駆者である。

(2) 弟子たちは、「神の国の福音」をイスラエルの民に伝えるように命じられた。

- ①マタ 10:5~7
- ②イスラエルの民がその福音を受け入れていたなら、「神の国」は、その時代に成就していたのである。

II. 王として来られたイエス

1. 公生涯において、イエスはなぜ奇跡を行ったのか。

(1) イエスが「神の国」を来たらせる権威ある王であることを証明するため。

2. 公生涯において、イエスはどのような奇跡を行ったのか。

(1) イエスは、「神の国」の特徴を反映させる奇跡を行った。

- ①悪霊の追い出し
- ②自然界の支配
- ③病の癒やし
- ④大漁の奇跡
- ⑤パンと魚の増加
- ⑥死者の蘇生

3. 弟子たちを派遣する際、イエスは彼らに何を命じたのか。

(1) 「神の国」を宣べ伝えるように命じると同時に、奇跡を行う権威も付与した。

①この権威は、一時的に付与されたものである。

②マタ 10 : 7~8

Mat 10:7 行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。

Mat 10:8 病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出さなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。

4. イエスと弟子たちが行った奇跡は、イスラエルの民に何を教えたのか。

(1) 2つのことを教えた。

①イエスは、地上に「神の国」を設立する権威を持ったお方である。

②民がイエスを受け入れるなら、「神の国」はただちに地上に成就する。

Ⅲ. イスラエルの民の不信仰

1. 悪魔は、どのような霊的戦いを仕掛けてきたのか。

(1) イエスのメシア性を拒否するために、ベルゼブル論争を用いた。

①マタ 12 : 22~32

(2) 悪霊の追い出しに関して、パリサイ人たちは次のような理解を持っていた。

①悪霊の追い出しは、先ず悪霊の名を聞き出し、次にその名を呼んで行う。

②しかし、口のきけない人の場合は、この方法は役に立たない。

③口の聞けない人から悪霊を追い出せるのは、メシアだけである。

(3) ある時イエスは、メシアにしかできないはずの悪霊の追い出しを行った。

①それを見た群集は、「この人は、ダビデの子なのだろうか」と反応した。

*「ダビデの子」とは、メシアの称号である。

②群集は、判断を霊的指導者であるパリサイ人たちに委ねた。

(4) パリサイ人たちには、2つの選択肢しかなかった。

①イエスをメシアと宣言する。

②イエスのメシア性を否定する。

(5) 彼らは②を選択した。

①「悪霊どものかしらベルゼブルによって悪霊どもを追い出している」

②これが、ユダヤ人たちがイエスのメシア性を否定する公式の理由となった。

③ユダヤ人の霊的指導者たちは、重大な過ちを犯した。

④と同時に、そのような指導者たちに盲目的に従った民衆にも責任はある。

2. イエスを拒否した結果、何が起こったのか。

- (1) イスラエルに提供されていた神の国は彼らから取り去られた。
 - ①将来の信仰的なイスラエルのために取っておかれることになった。
- (2) 神の国が再度提供されるのは、患難時代に入ってからのことである。
 - ①マタ 24~25 章参照
 - ②患難時代に、民はイエスがメシアであることを受け入れるようになる。
- (3) メシア拒否の罪のゆえに、その世代のイスラエルの民に神の裁きが下った。
 - ①それが、40 年後（紀元 70 年）に起こるエルサレムと神殿の破壊である。

IV. 神の計画の成就

1. 神が悪魔に勝利したとどうして言えるのか。

- (1) 悪魔は、自分が勝利したと思ったことである。
- (2) しかし神は、民の不信仰をご自身の計画の成就のために用いられた。
 - ①イエスを拒否した民は、イエスを十字架に付けることを要求した。
 - ②この死は「世の罪を取り除く神の子羊」(ヨハ 1:29) としての死であった。
- (3) ヨハ 19:30

Joh 19:30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

- ①イエスの死によって神の義が成就した。
 - ②イエスを信じる者は、信仰によって罪の赦しと永遠のいのちを得る。
- (4) イエスの死は、神の計画の成就をもたらした。
 - ①人を罪と死の束縛から解放する。
 - ②サタンと闇の王国を打ち砕く。
 - ③神政政治の国を設立する。

2. イエスの復活にはどういう意味があるのか。

- (1) 父なる神は、イエスの贖罪の死が有効なものであることを認めた。
 - ①もしイエスの死が有効でないなら、イエスが復活することはなかった。
- (2) イエスは、死とサタンに対して勝利された。
 - ①1 コリ 15:22~24 参照

(3) 復活によって、「神の国」のプログラムは今も有効であることが証明された。

①イエスが死んだとき、弟子たちは「神の国」に対する希望をなくした。

②しかし、復活のイエスの教えに触れ、その希望を回復した。

③イエスは40日間にわたって彼らの前に現れ、神の国について教えた。

④彼らは、「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか」(使1:6)と尋ねた。

⑤使1:7

Act 1:7 イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るどころではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。

⑥40日後に、イエスは天に昇られた。

⑦イエスは、イスラエルの民が悔い改めてイエスを信じる時まで、そこにとどまっておられる。

パートⅣ. 新約時代

22章 教会の誕生

—宣教の広がり—

イントロダクション

1. 「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマに沿って聖書を読み解いている。
 - (1) この葛藤は、創世記3章以来続いているものである。
 - (2) この葛藤は、黙示録20～21章で終わる。

2. 文脈の確認
 - (1) パートⅠ. 葛藤の舞台設定 (1～3章)
 - (2) パートⅡ. 旧約時代 (4～17章)
 - (3) パートⅢ. 中間時代 (18～19章)
 - (4) パートⅣ. 新約時代 (20～23章)

3. 新約時代
 - (1) 20章 メシアの到来—十字架への道を妨害する悪魔—
 - (2) 21章 神の国の提示—神の国の成実は延期された—
 - (3) 22章 教会の誕生—宣教の広がり—
 - (4) 23章 教会に対する迫害—抵抗する悪魔—

4. これまでの内容の復習
 - (1) イスラエルの民は、イエスがメシアであることを信じなかった。
 - ①シナイ契約による「選びの民としての地位」を一時的に奪われた。
 - ②しかし、イスラエルに対する神の約束が無効になったということではない。
 - ③預言者たちは、イスラエルの将来の悔い改めと回復を預言していた。

 - (2) ペテロは、ペンテコステの日に以下のように語った。
 - ①使3:19～21

Act 3:19 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。

Act 3:20 そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わして下さいます。

Act 3:21 このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

 - ②エゼ36:25～38 やゼカ12:10～13:2を基に語っている。

③イスラエルが一時的に退けられたのは、異邦人に救いが及ぶためである。

*ロマ 11 : 11~27

④再臨までの期間、イスラエル代わって神の計画を実行するのは、教会である。

5. アウトライン

(1) 反ユダヤ主義の広がり

(2) 教会誕生の約束

(3) 教会の誕生

教会の誕生について学ぶ。

I. 反ユダヤ主義の広がり

1. 神の国の設立を阻止する方法

(1) メシアの再臨の前提条件は、イスラエルの民の悔い改めである。

①それゆえ、イスラエルの民を抹殺すれば、メシアの再臨はない。

(2) 反ユダヤ主義の最終ゴールは、再臨の阻止である。

①ユダヤ人に対する迫害は、彼らが自らの不信仰を悔い改めるまで続く。

*マタ 23 : 37~39、ルカ 19 : 41~44

2. 悪魔の「手先」

(1) ローマ帝国

①ユダヤ人の反乱を鎮圧することを通して、悪魔の手先として働いた。

②その結果、数百万人のユダヤ人たちが殺された。

(2) キリスト教会

①中世になると、制度化された教会が、組織的にユダヤ人を迫害した。

②異端審問は、その実例である。

(3) ナチス・ドイツ

①第二次世界大戦中は、ナチス・ドイツが悪魔の手先となった。

②ヨーロッパのユダヤ人 600 万人が殺された。

(4) 共産主義のロシア

①戦後は、共産主義のロシアが悪魔の手先となって、ユダヤ人を迫害した。

(5) アラブ諸国

- ①アラブ・イスラエル紛争の背後にも、悪魔の意図がある。
- ②悪魔の意図は、イスラエルを地上から抹殺することである。

3. 神の守り

- (1) イスラエルの民が地上から消え去ることは決してない。
 - ①神は、ご自身の約束を守るために、彼らをお守りになる。
- (2) 「イスラエルの残れる者」(ユダヤ人の真の信仰者)は存在し続ける。
 - ①ロマ9:27~28

II. 教会誕生の約束

1. 神の計画を推進する新しい民

- (1) 教会の描写
 - ①ユダヤ人と異邦人から成る「新しい一人の人」(エペ2:15)。
 - ②「キリストの花嫁」
 - ③「キリストのからだ」
- (2) 教会の活動は、神がイスラエルの民に対する働きかけを再開する時まで続く。
 - ①携挙は、教会の活動が終了するタイミングで起こる。

2. 大宣教命令

- (1) マタ28:18~20

Mat 28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

Mat 28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

Mat 28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

- (2) 使1:8

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

- ①大宣教命令を実行するための力として、教会(信者)に聖霊が与えられる。
- ②この聖句は、使徒の働きの目次になっている。

*エルサレムでの伝道(2:1~8:4)

*サマリアでの伝道(8:5~25)

*ユダヤでの伝道 (8 : 26~12 : 25)

Ⅲ. 教会の誕生

1. 五旬節 (ペンテコステ) の日に、教会が誕生した (使 2 章)。

(1) この祭りは、シナイ山で律法を受けたことを記念する祭りである。

①クリスチャンにとっては、聖霊降臨の記念日となった。

(2) この日弟子たちは、聖霊のバプテスマによってイエスと一体化した。

①彼らは、世界宣教に必要な力を受けた。

②聖霊は信じる者に賜物を与えるが、ここでは聖霊自身が賜物となった。

2. 教会は、サタンにとって新たな脅威となった。

(1) 教会が福音を伝えるたびに、それを信じる人が起こされる可能性がある。

①福音を信じた人は、サタンの王国から神の王国に移ることになる。

(2) 使 26 : 17~18

Act 26:17 わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのところに遣わす。

Act 26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。』

3. 激怒した悪魔は、新しい戦略を採用した。

(1) 悪魔は、人々の目に覆いをかけた。

①2 コリ 4 : 3~4

2Co 4:3 それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

2Co 4:4 彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

(2) 悪魔は、攻撃の矛先を新しく誕生した教会に向けた。

①使徒の働きの中に記録されている迫害は、教会に対するサタンの攻撃がいかに激しいものであるかを証明している。

(3) 次回は、宣教の広がり、悪魔の妨害について学ぶ。

パートIV. 新約時代
23章 教会に対する迫害
—抵抗する悪魔—

イントロダクション

1. 「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマに沿って聖書を読み解いている。

- (1) この葛藤は、創世記3章以来続いているものである。
- (2) この葛藤は、黙示録20～21章で終わる。

2. 文脈の確認

- (1) パートI. 葛藤の舞台設定 (1～3章)
- (2) パートII. 旧約時代 (4～17章)
- (3) パートIII. 中間時代 (18～19章)
- (4) パートIV. 新約時代 (20～23章)

3. 新約時代

- (1) 20章 メシアの到来—十字架への道を妨害する悪魔—
- (2) 21章 神の国の提示—神の国の成成は延期された—
- (3) 22章 教会の誕生—宣教の広がり—
- (4) 23章 教会に対する迫害—抵抗する悪魔—

4. これまでの内容の復習

- (1) 悪魔は、教会の成長を非常に恐れた。
 - ①救われる人が増えれば、悪魔の国に属する人の数が減る。
 - ②そこでサタンは、教会に対して激しい迫害を仕掛けてきた。

5. アウトライン

- (1) ユダヤ人からの迫害
- (2) 迫害者サウロの登場
- (3) 内側からの攻撃
- (4) エルサレム会議

教会に対する迫害について学ぶ。

I. ユダヤ人からの迫害

1. 初期の教会のメンバーは、ほぼ全員がユダヤ人信者であった。

- (1) 初期の迫害は、突発的に起こるローカルな出来事であった。

①首謀者は異邦人ではなく、「イエスは主なり」という信仰に反対するユダヤ人たちであった。

2. 使徒の働きの中に記録されている迫害を列挙してみよう。

(1) ペテロとヨハネが投獄された (使 4 章)。

①ペテロは、サンヘドリンの前でこう宣言した。

②使 4 : 12

Act 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

③ユダヤ人たちは、2 人を脅したうえで釈放した。

(2) 使徒たち (恐らく 12 人全員) は、公の留置場に入れられた (使 5 章)。

①大祭司とサドカイ派の者たちが、ねたみに燃えてこれを行った。

②主の使いが夜中に牢の戸を開け、「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばをすべて語りなさい」と励ました。

(3) ステパノは石打の刑で殉教の死を遂げた (使 7 章)。

①彼は、「主イエスよ、私の霊をお受けください。主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と祈りながら眠りについた。

(4) ペテロが投獄された (使 12 章)。

①ヘロデ・アグリッパは、ユダヤ人の歓心を買うためにこれを行った。

*ヘロデは、すでにヨハネの兄弟ヤコブを殺していた。

②神は、夜中に主の使い (天使) を遣わし、ペテロを解放した。

③その後ヘロデは、神の裁きによってカイサリアで急死した。

(5) 神の国と悪魔の国は、激しく激突した。

II. 迫害者サウロの登場

1. サウロが登場して以降、教会に対する迫害は組織的な様相を呈し始める。

(1) サウロは、教会を迫害することが神に仕える道だと深く確信し、精力的に動き回った

①使 8 : 1

Act 8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。／その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

②サウロは、悪魔の手先として教会迫害に全身全霊を注ぎ込んだ。

③しかし神は、迫害者を忠実なキリストのしもべに作り替えてくださった。

(2) ダマスコに向かっていたサウロは、その途上で復活のキリストに出会った。

①その結果、彼は異邦人への使徒として奉仕するようになる。

②彼の名はサウロからパウロに変わるが、パウロというのはラテン名である。

③悪魔の手先であった人物が、神の国ために用いられるようになった。

III. 内側からの攻撃

1. それは、教理的逸脱という形を取ってやってきた。

(1) 偽教師と呼ばれる者たちが多く現れ、教会の中をかき乱した。

①2ペテ2:1

2Pe 2:1 しかし、御民の中には偽預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れます。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込むようになります。自分たちを買い取ってくださった主さえも否定し、自分たちの身に速やかな滅びを招くのです。

③使20:29~30

Act 20:29 私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。

Act 20:30 また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。

2. 初期の教会を襲った異端的教えとは、次のようなものである。

(1) 律法主義

①ユダヤ主義者たちは、人は信仰と行いによって救われると主張した。

②特に問題なのは、異邦人は割礼を受けないと救われないという教えである。

(2) グノーシス主義

①これはギリシア哲学に立った霊肉二元論的教えである。

②霊は善で肉は悪であるが、肉が霊に影響を及ぼすことはない。

③救いは、「超自然的知識」を得ることによって与えられる。

(3) 無律法主義

①これは、恵みによって救われた人は、何をしても構わないという教えである。

②ロマ6:15

Rom 6:15 では、どうなのでしょう。私たちは律法の下ではなく、恵みの下にあるのだから、罪を犯そう、となるのでしょうか。決してそんなことはありません。

3. 神は、サタンが仕掛けた内側からの攻撃にも対処された。

(1) その方法は、使徒たちに真理を啓示し、それを書かせるということであった。

①その結果、新約聖書の書簡が完成した。

(2) 今も教会に対する悪魔の攻撃は続いている。

①信者は、外側からも内側からもサタンの攻撃にさらされている。

②しかし私たちには、使徒たちが残してくれた神のことばがある。

③それが、私たちにとっての霊的戦いの武器である。

④異端的教えが主要テーマになっている書簡

* ガラテヤ人への手紙、コロサイ人への手紙、

* ヨハネの手紙第一と第二

* ユダの手紙

IV. エルサレム会議

1. 内側からの攻撃の中では、エルサレム会議が特筆すべき出来事である。

(1) この会議の文脈

①第一次伝道旅行で多くの異邦人が救われた。

②その後、ユダヤ主義者がアンテオケに来て、異邦人は割礼を受けなければ救われないと教えた。

③パウロとバルナバは、その教えに激しく反論した。

④最終的には、エルサレム教会で使徒たちを交えて議論することになった。

(2) エルサレム教会の監督であるヤコブの裁定

①ユダヤ人信者は異邦人信者に割礼を要求してはならない。

②異邦人も恵みと信仰によって救われる。

③諸教会への手紙には、「聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかは、あなたがたにその上、どんな重荷も負わせないことを決めました」と記された。

(3) 全会一致の決定へと信徒たちを導いたのは、聖霊であった。

①異邦人は救われるためにユダヤ教に改宗する必要はない。

②しかし、ユダヤ人信者への配慮として、4つのことを避けるよう。

* 偶像に供えた物、血、絞め殺した物、不品行

③この決定により、異邦人伝道が飛躍的に前進する。

このシリーズは、ここで終わることにする。

「神の国と悪魔の国」の戦いが終わるのは、黙示録 21、22 章においてである。